

## 第2回テレプレゼンスロボットを使った授業

このロボットを使うと、どんな未来と過去が見えるのだろうか？



令和3年1月29日（金）中学部1年生の社会科では「歴史」の単位について、福島県立博物館（以下、博物館）の協力のもと、ロボットを使った授業を行いました。

テレプレゼンスロボットは、自走式遠隔ロボットです。パソコンの矢印キー等で前後への移動と左右の転回を遠隔操作することが可能です。さらに、同時動画配信ができ、ロボットが移動し見聞きし

ている映像と音をそのままパソコンの画面で視聴し、画面越しに会話することもできます。このシステムを活用し、博物館と教室を結び授業を行いました。

生徒は、画面に映っている学芸員の方の誘導を手がかりにロボットを操作し、博物館の受付を通り、学習テーマである福島県内で出土した打製石器や磨製石器の収蔵コーナーまで移動させました。そこで、ロボットを介して、学芸員の方にインタビューをして、それらの石器が発掘された市町村や使い方の情報を聞き取ったり、形や色を画面越しに見て、スケッチしたりすることができました。石を削り石器に加工するための道具として、“鹿の角”が使われたことを聞いて驚く表情を見せる場面も見られました。

生徒は、ロボットを使って地域の博物館から身近な県内の歴史（古代）の1コマを調べることができました。

竹田校では、日頃から、各教科等の指導において、学習指導要領の目標の達成を図るために必要な手段として、どのようにICTを関連付け活用すればよいか職員間で話題にしてきました。それは、イベント的にではなく、いつもの授業の中でICTを最適に組み合わせて有効に活用するということです。

本単元は、様々な状況のため1学期から実施を延期していた単元となります。しかし、今回、ICTを組み合わせて実施することができ生徒の学びの充実につなげることができました。

本授業を実施するにあたり、ご協力いただきました多くの皆様には、心より御礼申し上げます。大変ありがとうございました。

ある生徒は、自宅に帰り授業のことを自分から家族に説明したそうです。家庭でも石器についての主体的、対話的で深い学びが持続しているそうです。